

ドイツ：ユーティリティ大手 EnBW 社、 風力発電投資ファンドを試験販売¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット
新エネルギーグループ

本年10月、ユーティリティ大手の EnBW 社は、個人投資家を対象とした風力発電投資ファンドの試験販売を始め10日間で完売した²。

風力発電投資ファンドは同社がドイツ国内で今までに開発した17箇所の風力ファーム（合計発電容量156MW）で構成され、投資期間は7年間、利回りは2.5%/年。全体の販売額は2百万ユーロ、投資家1人当たりの購入可能額は1-10千ユーロであった。

既に累計導入量が35GWを超えたドイツの風力発電³は、市民が出資した風力ファームが大きな割合を占め、ドイツのエネルギー転換（Energiewende）は市民に支えられて発展してきている⁴。EnBW社は2020年までに新たに1,000MWの風力発電の建設を計画しており、今般の試みは市民の風力発電への関心の高さを利用して、新しい資金調達の手段を探るものであった。

EnBW社は電力/ガスの販売、発電（在来型、再エネ）、配電事業を行い、2013年の売り上げは205億ユーロ、純利益は1.2億ユーロであった。元々、在来型発電事業が経営の柱であったが、Energiewende政策によって再エネ発電量が大きく増えたことから卸電力価格が下落し、そのため在来型発電による利益が大きく減少してきている。

かつては高い収益性を誇る優良企業であった EnBW 社は、Energiewende 政策に対応した抜本的な経営戦略の見直しに迫られ、2020年に向けた中期経営計画を策定⁵した。それによる

¹本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業（海外省エネ等動向調査）」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

² EnBW Press Release 参照

https://www.enbw.com/company/press/press-releases/press-release-details_83968.html;jsessionid=14938BCB8D11E8A254EB4ED8B270B8D4.nbwroot41

³ 2014 Half-year Report (World Wind Energy Association)

http://www.wwindea.org/webimages/WWEA_half_year_report_2014.pdf

⁴ 2012年の陸上風力発電累計設置容量（30GW）の内、50%が市民の出資による。市民参加の形態は、個人所有（4%）、市民が出資した会社所有（20%）、広い地域の多数の市民が参加（市民参加比率は限定的）（26%） “ドイツの市民エネルギーの定義と市場分析”（ロイファナ大学リューネブルク、他）参照
http://www.die-buergerenergie-wende.de/wp-content/uploads/2013/10/definition-und-marktanalyse-vo-n-buergerenergie-in-deutschland_akt_2.pdf

⁵ Annual Report 2013 参照

と、在来型発電による利益（金利・税金・償却費前利益:EBITDA）は 2012 年から 2020 年にかけて 12 億ユーロから 3 億ユーロへ減少するが、再エネ発電による利益（EBITDA）は 2 億ユーロから 7 億ユーロへ増大するとしている⁶。

EnBW 社は再エネ発電事業を新しい経営の柱とし、なかでも風力発電を重視している。一般の個人投資家を対象とした風力発電投資ファンドの試験販売が成功したことから、今後本格的な風力発電投資ファンドの発売を計画している。

お問い合わせ : report@tky. ieej. or. jp

<http://report2013.enbw.com/fileadmin/ONGB13/Downloadcenter/EN/EnBW-Report-2013-Complete.pdf>

⁶電力/ガスの販売による利益（EBITDA）は 2 億ユーロから 4 億ユーロへ増大、配電事業の（EBITDA）は 8 億ユーロから 10 億ユーロへ増大するとしている。EnBW 全体の利益（EBITDA）は変わらず、24 億ユーロを維持するとしている。